

JICA 教師海外研修 授業実践案

【実践者】

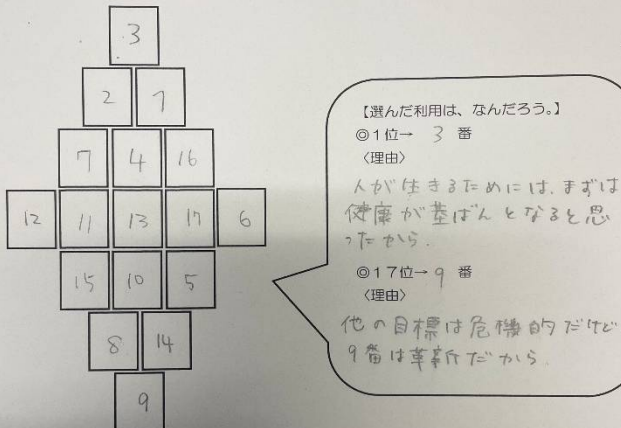
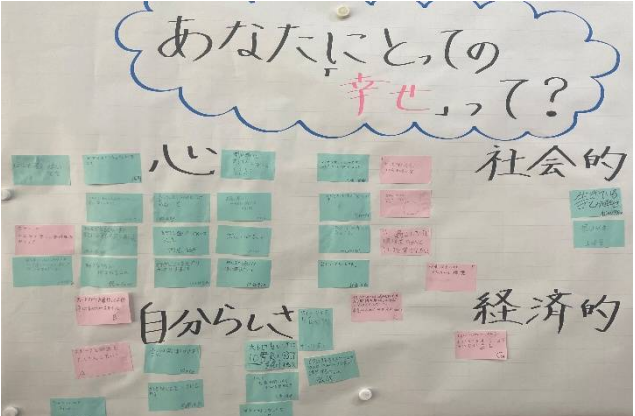
氏名	鶴岡 美沙	学校名	千葉県八千代市立村上小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	6年 1組（29名）
実践年月日もしくは期間（時数）	R7年 11月 ～ 12月（6時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：道徳、総合的な学習の時間		
2. 単元名と単元目標		
単元名：ともに生きるために ～多様な幸せを考え、つながりをつくる私～		
単元目標：バングラデシュでの現地経験や写真資料をもとに、世界の子どもたちや仲間の多様な価値観・幸せのあり方に気づき、互いを尊重しながらよりよい学級・社会をつくろうとする態度を育てる。		
関連する学習指導要領上の目標：自分の生き方を考え、課題を解決しようとする資質・能力を育成すること。		
異文化理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚をもつこと。		
多様な文化や背景をもつ人と共に生きるために、互いの違いを理解し、尊重しようとする心情と態度を育てる。		
3. 単元の評価 規準	①知識・技能	- 世界や日本の多様な文化・生活の違いや背景について理解している。 - マイノリティ、児童労働などの概念を適切に捉えている。
	②思考・判断・表現	- 写真やロールプレイを手がかりに、子どもの立場や背景を想像し、多面的に考え、自分の言葉で表現できる。 - 自分の「当たり前」や「幸せ」の価値観を相対的に捉えられる。
	③主体的に学習に取り組む態度	- 新しい価値観に興味をもって関わろうとする。 - 他者の意見や考えを尊重しながら、対話的に学びに参加している。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 現代の子ども達は、インターネットやSNSなどを通して世界と容易につながる一方、自分とは異なる価値観や背景をもつ人々への理解が十分とはいえない現状がある。また、バングラデシュをはじめとした途上国の文化や生活に触れる機会も限られ、世界の多様な現実を相応することが難しい。そこで本単元では、教師が実際にバングラデシュで見聞きした児童労働や生活の様子、子ども達の表情や現地の文化に関する写真・動画を活用し、日本とは異なる価値観や「幸せ」の形にふれる学びを設定する。多様な背景をもつ人々の生き方と自分自身の生き方を重ね合わせながら、「自分の普通はだれかの普通ではない。」ことに気づき、互いを尊重しようとする態度を育成するために、本単元を設定した。 【単元の意義】 本単元では、児童労働を単なる「かわいそう」「大変」という表層的理解にとどめず、その背景にある文化・経済・家庭環境などの多様な要因を捉えながら、自分の価値観を相対化することに意義がある。また、フォトランゲージやロールプレイなどの対話的な学習を通して、子ども達が主体的に他者の立場を想像し、自分の考えを再構築する学びを重視する。さらに、遠い国の問題を「自分とは関係のないもの」と捉えるのではなく、「自分の身の回りにも多様な立場や背景の人がいる」という視点につなげ、学校生活をよりよくする行動へ結び付けることを目指す。	

【児童／生徒観】 本校の6年生は、外国籍の児童や日本語指導が必要な児童と日常的に関わっており、文化や言語の違いが身近にある学年である。そのため、相手によって感じ方や伝わり方が異なることを知りつつも、その背景にある価値観や生活の違いまで深く考える機会はまだ多くない。また、6年生は自分と他者の違いを比較しながら考えられる発達段階にある。フォトランゲージやロールプレイなどの活動は、互いの「当たり前」の違いに気づき、多様な背景を理解する学びにつながる。また、教師の Bangladesh の体験談や現地の写真・動画は、児童の興味を引き出し、世界と自分を結びつけて考えるきっかけとなる。こうした学習を通して、「自分の普通は、だれの普通でもない。」という視点を深めていくことができる。 【指導観】 本単元の指導では、教師が一方向的に知識を伝えるのではなく、児童の気づきや疑問から学習が展開するように、問いを中心に捉えた授業づくりを重視する。特にフォトランゲージ、ロールプレイ、小グループ対話などの活動を通じて、互いの感じ方の違いに気づき、多様な価値観を尊重しながら学び合う場を丁寧に設計する。また、Bangladesh の実体験を教材化し、児童が臨場感をもって他者理解を深められるようにすることを大切にする。さらに、単元の最終では、学んだことを自分の学校生活や周囲への働きかけへとつなげるなど、学習の価値が児童の行動に現れるような指導を目指す。				
5. 単元計画（全6時間）				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	世界の課題と価値観に気づく	SDGs から価値観の違いを知る	SDGs17 の目標ダイヤモンドランキング作成(個人→グループ)	SDGs カード ワークシート JICA 教材『共につくる私たちの未来』
2 本時	感じ方の違いから“幸せ”を考える	Bangladesh の子どもの思いに触れ、自分の価値観と比較する	フォトランゲージ ロールプレイ 対話活動	Bangladesh の写真・動画 役割カード
3	世界の“普通”を知る	児童労働やマイノリティの立場に気づく	ロールプレイ	JICA 資料・写真
4	多様性と自分のクラス	クラス 29 人のそれぞれの背景の違いに気づく	「自分の当たり前」カードゲーム	アンケート
5	私ができること	身近な場で多様性を大切にすることを考える	グループでアクションプラン作成	まとめシート
6	発信する私	学びを学校・家・地域に伝える	ポスター・スピーチづくり	紙・タブレットなど
6. 本時の展開（2時間目）				
本時のねらい：Bangladesh の子どもの生活や価値観に触れ、自分の“普通・幸せ”との違いに気づき、多様な幸せを考えることができる。				
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態			指導上の留意点 (支援)

導入 (5分)	1. 本時のねらいを示す ・バングラデシュの人々の生活や価値観に触れ、自分の普通・幸せとの違いに気づく。 ○あなたにとっての「幸せ」って、どんなとき？ ・付箋に一つ書く。 ・ペアで交換・短い共有 ○みんなの幸せをグループ分けしてみよう。 ・心(気持ちの安定・リラックス・やる気)、社会的(人とのつながり・協力・支え合い)、身体的(健康・安全・安心)、経済的(生活の安定・必要なものがそろう)、自分らしさ(好きなこと・得意なこと・生きがい)のグループに貼る。 ○同じクラスでも、幸せの形が違うのはなぜだろう？	・発言が苦手な児童用に絵や短い単語でも大丈夫であると提示する。
展開 (12分)	2. フォトランゲージ活動 ○数枚の写真を提示する。 ○直感で気になった写真をグループで1枚選んで、その写真について次の3つをワークシートに書いてみよう。 ・①見たこと(事実)、②感じたこと(気持ち)、③想像するその子の願い・幸せについて書く。【グループワーク】 ○グループで話し合ったことを全体で共有してみよう。 ・グループで共通点や違いを話し合い、一つ「気づき」をまとめる。 ・グループごとに発表する。	・写真は「かわいそう」という固定観を生まない言葉がけ(例：「どうしてそう見えるかな?」)で誘導する。 ・グループを巡回し、その気持ちなぜ出てきたのかを問い、思考を深める。
(15分)	3. ロールプレイ ○役割カードを配布する。 A:家の手伝いをしてから学校に来る子 B:勉強が好きだが塾に行けない子 C:家業で時々学校に来られない子 ・各児童がランダムに選び、「その子の朝～夜までの一日」を想像してワークシートに書く。 ・ペア→グループ活動 「あなたは今どんな気持ち？」 「今日の中で大切にしていることは？」 「この子の大切にしている幸せは何だろう。」 「私達の普通とどう違うのだろう。」 ○この子とクラスで互いに心地よく過ごすには？ ・付箋に大切にしたい関わりを書く。 ・グループごとに役の子の語りとして発表する。 4. まとめ ○個人の振り返りをさせる。	・ロールプレイは強制しない。演技たくない児童がいる場合は、観察者や書記役として参加させる。 ・児童が特定のクラスメイトを想起して発言しないよう、一般化した表現を促す。

まとめ (10分)	・「今日気づいたこと」「学級で大切にしたいこと」をワークシートに書く。 ・黒板に付箋を貼り、分類する。 ○今日の学びを次の時間にどんな形で伝えられそうかな？	・発言の少ない児童の気づきも黒板で肯定的に扱い、教育的承認をする。
7. 資料（教材） ・バングラデシュで撮影した写真・動画 ・役割カード3種 ・フォトランゲージ用ワークシート		8. 評価規準に基づく本時の評価方法 ・バングラデシュの生活や人々の様子について、写真や話からポイントをとらえているか→ワークシートの記述で評価 ・写真やロールプレイの役割の立場に立って、多面的に考え、言葉で表現できているか→グループ発言、ロールプレイの発表内容で評価 ・積極的に対話する姿、他者の意見を尊重する姿→観察記録で評価
9. 学校外との連携 ※JICA 以外。なければ不要。 なし		10. 学びの軌跡（児童生徒の反応・変容、感想文、作文、ノートなど） ○第1時の記録
 【選んだ利用は、なんだろう。】 ◎1位→3番 〈理由〉 人が生きるためには、まずは健康が基盤となると思っています。 ◎17位→9番 〈理由〉 他の目標は危機的だけれど、9番は革新的だから。		SDGsカードを用いてダイヤモンドランキングを作成し、児童が大切だと思う目標とその理由を記述した。健康や命、教育などを重視する意見が多く見られた一方、順位や理由には個人差があり、同じSDGsでも価値の捉え方が異なることに気付く姿が見られた。
○第2時の記録 「あなたにとっての幸せ」について個人で書いた付箋(緑)と、フォトランゲージ後に他者の立場に立って書いた付箋(ピンク)を比較した。分類して掲示することで、立場や環境が変わると捉え方が変容する一方、家族との時間など共通する幸せがあることに児童が気付く姿が見られた。		



①写真からわかること(事実)

・ごはんを食べてる、学校へ行くこと、1つのつくえに2人、全員女性、手で食べてる、自分と同じくらい歳の同じ服を着ている

②自分が感じたこと(気持ち)

・うれしそう、たのしそう

③想像するその人の願い・幸せ

・ごはんを食べること、学校へ行くこと、もう少しつくえがほしい、家に帰りたい(家族に会いたいこと)



↑ →
実際に使用した
写真の一部

①写真からわかること(事実)

・ごはんを食べてる、学校へ行くこと、1つのつくえに2人、全員女性、手で食べてる、自分と同じくらい歳の同じ服を着ている

②自分が感じたこと(気持ち)

・うれしそう、たのしそう

③想像するその人の願い・幸せ

・ごはんを食べること、学校へ行くこと、もう少しつくえがほしい、家に帰りたい(家族に会いたいこと)

写真から読み取れたことを個人で記述し、情報量を段階的に増やししながらフォトランゲージを行った。1回目が写真のみから感じたことを記し、2回目は背景や状況を知った上で再度考えを書き加えたことで、見方や考え方の変容が可視化された。

役割カード	役割カード	【Cさん】	【Aさん】
Aさん 朝はまだ早いうちに起きて、家の仕事をやる。水がなくて、煮くまであるまで行く。暑い水を運んでから家のごはんの準備を手伝う。仕事が終わってから学校に向かうので、宿題があることに書くことが多い。	Bさん 学校では先生の話をよく聞き、ノートで覚えていく。家に帰ると、宿題をやる。学校の勉強で得意な科目は国語、算数、理科。得意な科目は国語、算数、理科。得意な科目は国語、算数、理科。	朝は早く起きて、家の仕事をやる。水がなくて、煮くまであるまで行く。暑い水を運んでから家のごはんの準備を手伝う。仕事が終わってから学校に向かうので、宿題があることに書くことが多い。	朝は早く起きて、家の仕事をやる。水がなくて、煮くまであるまで行く。暑い水を運んでから家のごはんの準備を手伝う。仕事が終わってから学校に向かうので、宿題があることに書くことが多い。

異なる立場や状況を設定した役割カードを基に、自分とは異なる立場から考える活動を行った。ワークシートには、その人の思いや願い、困り感が記され、児童が他者に立って考えようとする姿が見られた。

【本時または単元について、個人で振り返ったことを記載】

11. 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか

海外研修で訪れたバングラデシュでは、日本とは異なる生活環境の中でも、人々が家族や仲間との繋がりを大切にしながら生活している姿が強く印象に残った。経済的な豊かさや便利さといった日本の基準だけで幸せを判断するのではなく、笑顔で過ごす時間や支え合う関係の中に幸せを見いだしている様子から、幸せには様々な形があると同時に、国が違っても共通する幸せもあることを

	実感した。 本単元では、こうした研修での学びをもとに、「違い」に気づくだけでなく、「同じ」にも目を向けながら多様性を考えることを大切にしました。バングラデシュの写真や出来事を通して、児童が自分達の生活や学級を振り返り、一人一人の背景や感じ方を尊重し、互いに支え合うことの大切さに気づけるようにしました。
12. 苦労した点	フォトランゲージの実施にあたっては、児童が写真から一面的に「かわいそう」「大変そう」と判断してしまわないよう、写真選定や提示方法に特に苦労した。情報を与えすぎず、しかし考えが止まらないよう、段階的に情報量を調整する必要があった。また、児童一人一人の感じ方を尊重しながら、偏見や先入観に気づかせる対話へと繋げることに難しさを感じた。
13. 改善点	フォトランゲージやロールプレイを通して、児童は写真や役割カードから多様な価値観や立場に気づくことができた一方で、その気づきが自分自身の考えの変化として十分に整理されない場面も見られた。意見交換は活発であったが、時間配分の関係から考えの変容を振り返り、言語化する時間を十分に確保できなかったことが課題である。 また、SDGs やバングラデシュの事例について理解は深まったものの、知る段階に留まる児童もいた。今後は学習の終末に自分の生活やクラスの中でできることを具体的に考える問いを設定し、学びを行動に繋げたい。さらに、マイノリティの視点を扱う際には、役割理解に差が生じないよう資料提示や問いを工夫し、より深い対話を促していく必要がある。
14. 成果が出た点	本単元を通して、児童が幸せや普通を一つの基準で捉えるのではなく、多様な価値観の存在に気づき、見方を更新していく姿が多く見られた。バングラデシュの人々の生活や写真資料に触れた当初は「かわいそう」「大変そう」と捉えていた児童も、学習が進むにつれて背景に目を向け、「異なる環境下でも同じ幸せをもっている」「不幸だと決めつけることはできない」と考えを深めていった。 フォトランゲージでは、同じ写真を段階的に扱うことで、表面的な判断から人物の思いや生活に目を向けるようになり、「見方は一つではない」「知ることで考えが変わる」という気づきに繋がった。話し合いの中で、自分の考えの変化を言葉にする児童も見られた。 また、ロールプレイや対話活動を通して、他者の立場に立って考えようとする姿勢が育まれた。役割になりきって考える中で、「自分だったらどう感じるか」「どんな支えが必要か」といった視点で意見を出し、単元後半には学びをクラスの人間関係に引き寄せて捉える姿も見られた。
15. 自由記述	本実践を通して、児童だけでなく、自身もまた「当たり前」や「普通」を問い直す学びとなった。今後は、海外研修で得た視点を生かし、児童一人一人の背景や思いに丁寧に向き合いながら、学びを行動や発信に繋がられる授業づくりを追究していきたい。

参考資料・使用教科書：

・金沢工業大学 SDGs センター.(n.d.) SDGs 学習教材(教員用).金沢工業大学.

https://www.kanazawa-it.ac.jp/sdgs/education/support/material_teach.html (2025/11/5 閲覧)